

◆ゴールデンウィークに、名古屋の甥のお膳立てで長男と二人して、屋形船に連れて行ってくれた。何しろ年寄りを運ぶのだから、他の家族は同行できない。三月のお彼岸の時もお墓に連れて行ってくれた。終つひの住処を確認できて安心している。屋形船ではごちそうを食べることが楽しみだった。次々と出来たての料理が配られてくるので、それを頬張りながら、最後の晚餐のような気分で心残りなく食べられた。

市川茂子

◆雨の中で郭公が鳴いている、西日本は梅雨入りしたようだ。第二歌集『白き川』が出てから一ヵ月になる。展景の仲間の皆様に、出版社から突然にお送りしたが、御目通しただけだろうか。昨年の八月の多発筋痛症発症とほぼ同時期に縁あって、迷い続けていた歌集発行を現代短歌社から決めた。沖縄やフクシマに関する社会詠は背景や時期、事実関係に間違いがあつてはならず調べ直しや推敲に時間がかかった。読む側と製作費を思えば歌数を出来るだけ減らしたい。朦朧とする頭で四校を重ね、現代短歌社もついに私の迷いに付き合い「念校」という五稿までとつてくれた。無我夢中のうちに月日が過ぎ季節が巡っている。皆様の住所はお仲間ということ教えていた

だけだ。加藤文子様には早くにお葉書を頂き、疲れ切った心身が励まされる思いで有難かった。一言でも反響があると嬉しい。歌集、句集、小説など突然送りつけられるものには、正直なところ迷惑なものもある。自分の時間を費やして読み、感想まで書くのは簡単ではない。そう思う私自身、一方的にお送りし反響を心待ちにしている。どうぞお許しください。筋痛症発症といい、私は業が深いのだろうか。

梅津純子

◆二階の屋根を軽く越えたイチヨウの木を、遂に伐ることにしました。手狭な庭に分別もなく、大木となる苗を植えたことへの後悔と、すすく伸びるイチヨウへの申し訳なきに、当日まで落ち込んでいましたが、知り合いの美容師さんに「決断したのなら、感謝して送ってあげて」と言われ、物事の考え方や付き合い方の大事な一面に気付きました。自分、自分、でないかと。前向きな人から勇気ももらい、できるだけ前向きな言葉にしてみました。

大橋千佳子

◆朝から真夏日になったという昼のニュース。つゆの間でもある。こたつ掛け（布団）を片づけ残していた。コインランドリーで洗う（一枚700円、表示20分余り）。その間、店のつづきのスーパ－のカフェコーナーで本を読む。一日で読み切れるので、このごろ、新書を読むことが増えた。ここでは『動物がくれる力』（岩波新書）。当然に読み切れない。つゆの間は混みますよと店の人（午前

中だけ在庫しているという)。乾燥機づかいが。店内乾燥機の方が数が多い。この店では子のスニーカーを洗ったことがある。専用機がある。こたつ掛け、は薄いものにしていうというしりあ。自宅の洗濯機次第で、洗うという。時間がかかるので、乾燥は自宅ベランダでした。前線の雨で天気はこのところ不安定、それで、不在にもできない。大物といっても洗濯物、それがすんで子にも話をした、ここ数日のわが家のニュースである。

小野澤繁雄

◆絹さやが毎日収穫できるようになって、朝の食卓を賑やかにしてくれるようになった。絹さやは秋のうちに種を蒔いてしまう人もいるようだが、我が家では三月の半ば過ぎに芽出しをし、雪の消えた畑の一角に定植する。肥やしは嫌い、連作は嫌いとなかなか扱うのは難しいが、お汁でもおひたしでも美味しい。マヨネーズにもよく合う。食感を楽しむ春野菜の優等生である。「絹莢の葉には必ず絵描き虫」

神村ふじを

◆長い間、お休みさせていただきました。編集部には励ましをいただき、歌作りに自信を無くしかけていましたが何とか戻る事ができました。思いがけない腰椎の圧迫骨折、激痛と七日間の安静には閉口しました。実感として、転ばないことを肝に銘じています。無事に卒寿を迎えられるよう念じて、気を付けています。

河村郁子

◆今年五月十一日の朝日新聞には驚いた。「有事に輸入が止まるなど国内で食料が不足する事態に備え、農林水産省が農産物の増産を農家や民間事業者に命令できる制度をつくる方向で検討を始めた」。「具体的には、花農家にコメやイモをつくるよう命令したり、限られた食料がまんべんなく消費者に届くよう事業者に指示したりできるようにすることを検討する」。これまで国は「食料はアメリカから輸入するから農家は花卉でもつくっている」と言っていたのに、何という方向転換！それに農家に命令するだなんて！肥料はじめ耕作に必要なものを大幅に値上げしておきながら。食料は有事に備えてではなく国内自給するのが基本だ。江戸時代のような地域循環型社会をつくっていかうという機運が高まればと期待したいが、現状はほど遠い。私は野菜を個人で売っている農協には加入していないので、農政全般をよく承知していない。田植えや野菜苗販売に忙殺されている友人たち、あと一週間したら一段落するだろう。この問題についてぜひ聞いてみたい。

新野祐子